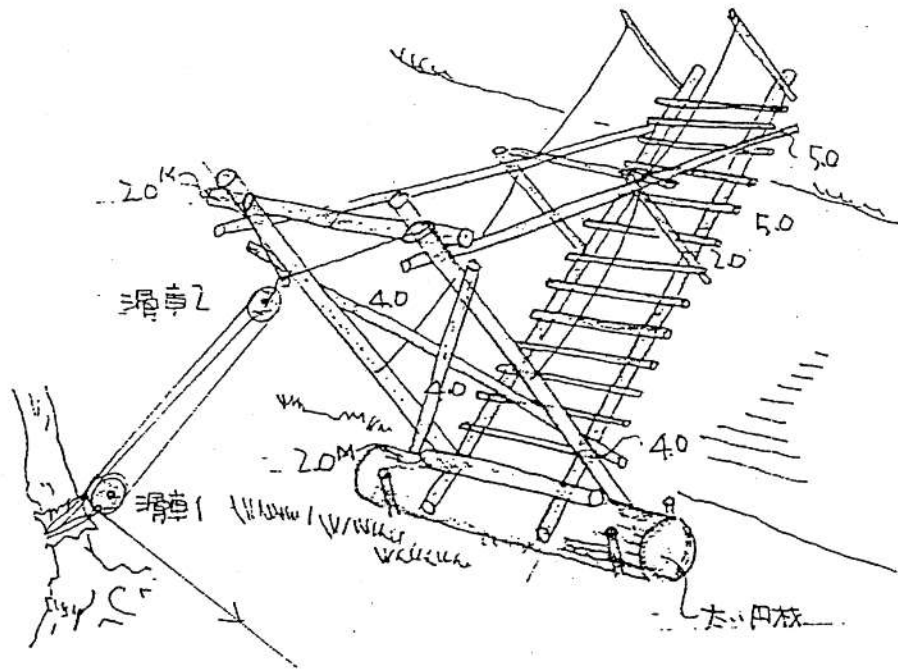


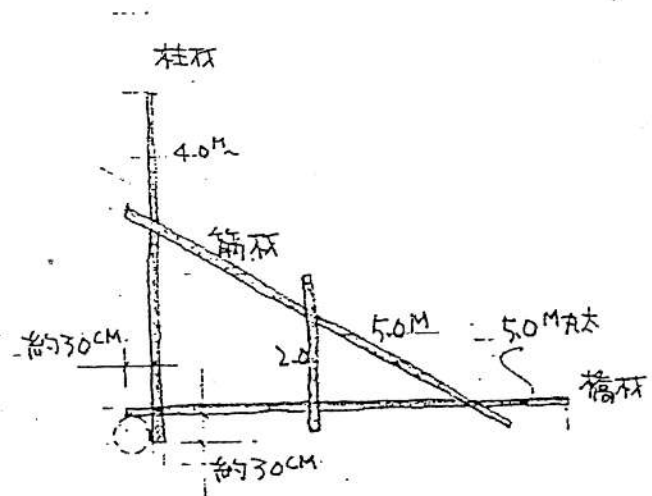
# №4 手動開閉橋。

1 丸太	5.0 <sup>M</sup>	4 <sup>本</sup>	70-7° 20 <sup>CM</sup>	20 <sup>M</sup>	1 <sup>本</sup>
2	4.0 <sup>M</sup>	4 <sup>本</sup>	80-7° (台付)	2.0 <sup>CM</sup> 5 <sup>M</sup>	2 <sup>本</sup>
3	2.0 <sup>M</sup>	4 <sup>本</sup>	90-7° (斗摺)	1.0 <sup>CM</sup> 6 <sup>M</sup>	2 <sup>本</sup>
4	1.0 <sup>M</sup>	20 <sup>本</sup>	10 滑車(単)(後)		2 <sup>本</sup>
5 太い円材	2.0 <sup>M</sup>	1 <sup>本</sup>	11 立木巻生材		1 <sup>本</sup>
6 杭材	0.7~1.0 <sup>M</sup>	4 <sup>本</sup>	12 藁なわ(約3M)		60 <sup>本</sup>



## A 準備

1 両側の三角骨組を2組み作る。

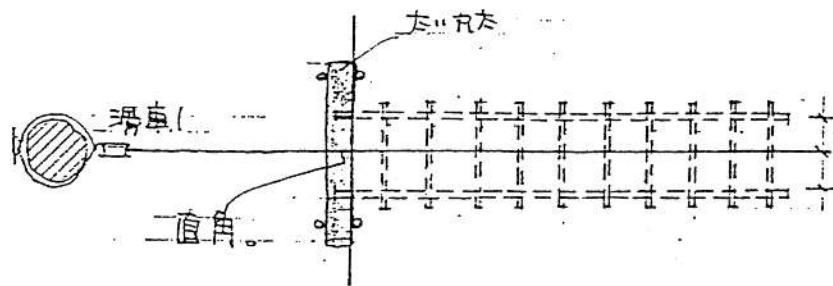


- 注1 2組みは同じ丸太、同じ形のものを作る。  
(左と右とのバランスを考慮して同じものが良い)
- 注2 4.0M丸太と5.0M丸太の交わりは90°以下とする。
- 注3 太い円材に当たる所の丸太の出は円材の  
半径以上又は30CM程とする。

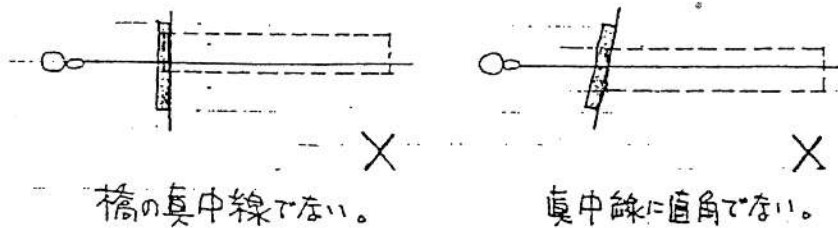
2 河に近い岸の立木に養生をして滑車(複)NO1を  
取り付ける。

3 河の岸の橋をかける場所に太い丸太を置き  
動かさないように杭を打つ。

注1. 滑車NO1, 太い丸太(橋の根元) 橋のかけ  
る対岸は下図の様にする。



滑車～橋の真の線 < 直角 > 太い丸太の線

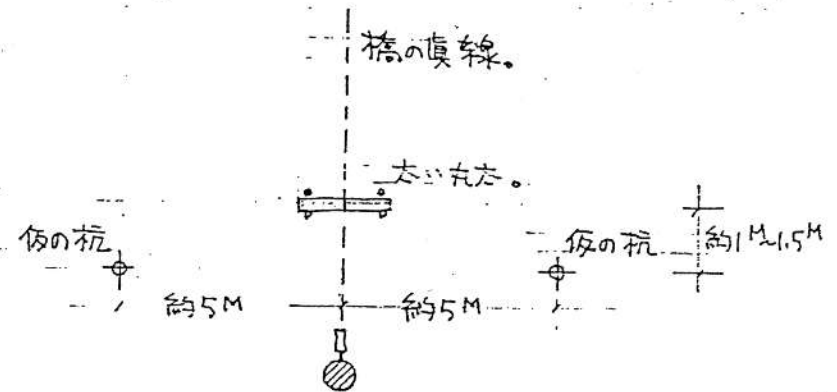


4 準備①で作った三角骨組の橋材の先端に  
手摺 $\alpha=70^\circ$  (6M) を仮結びする

(組立てる時に倒れないための仮引張り)

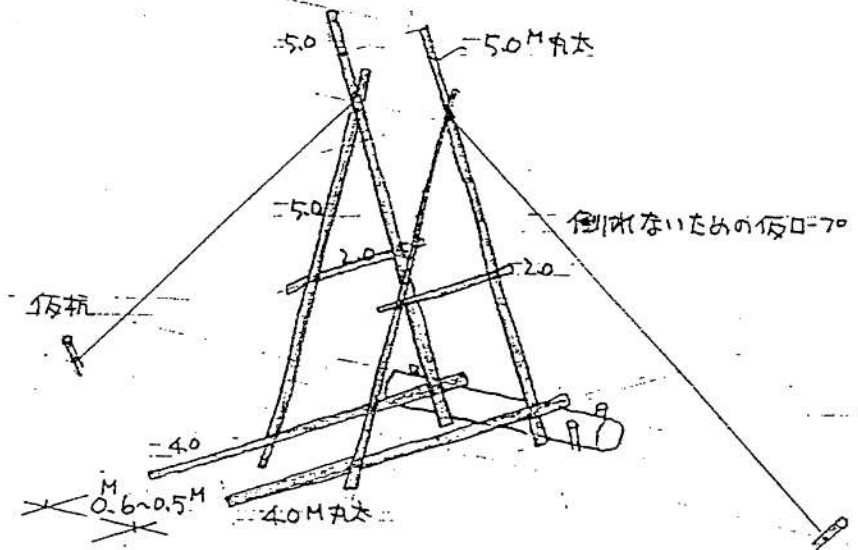
5 仮 $\alpha=70^\circ$  (準備④) のために仮の杭を

2本打つ。



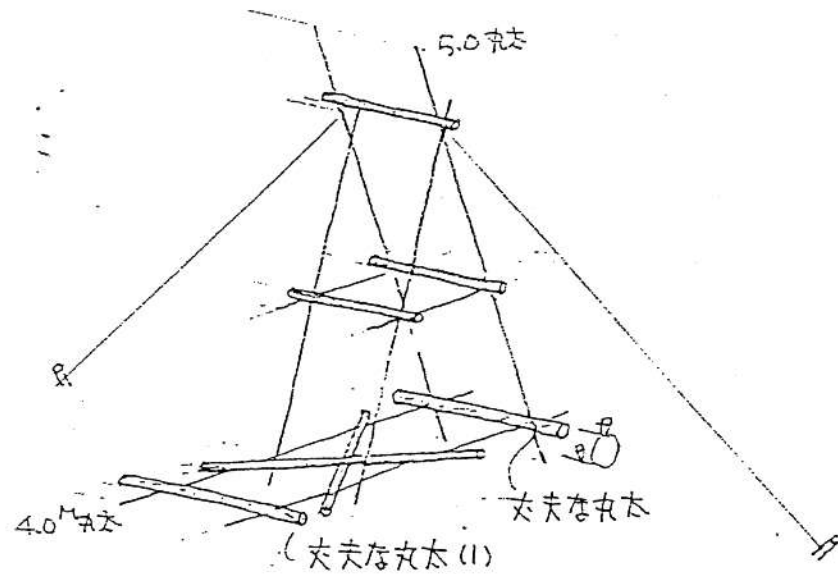
B 組み立て。

1 三角骨組を立てる。



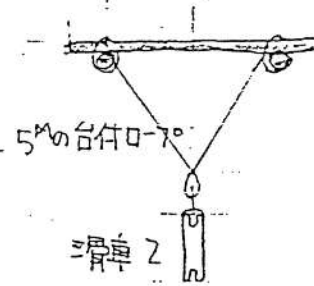
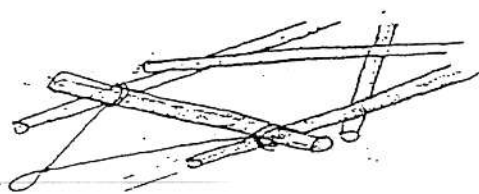
注 起す時危険があるので注意すること。

- 2 横丸太を取り付ける。
- 3 筋違い丸太を取り付ける。



- 注1 丈夫な丸太(2.0M)は4.0M丸太の上に取り付ける。
- 注2 左と右とバランスを考えて取り付ける。
- 注3 ねじれのない様に。

- 4 丈夫な丸太(2.0M) No1 台付ロープを取り付ける。



- 注1 5.0Mの台付ロープの真中に輪を作る。
- 注2 真中の輪より各々の柱丸太までは同じ長さとする。
- 注3 ロープは柱丸太と横丸太に3回で結ぶ。

- 5 台付ロープの真中の輪に滑車NO2(単)を取り付ける。
- 6 引張ロープ(20M)の端を滑車NO2に結び滑車NO2 → 滑車NO1 → NO2 → NO1と通す。

C 起す。

- 1 倒れないために張った仮ロープを仮の杭より解きスカウトが持つ。
- 2 滑車を通したロープを張りスカウト2人〜3人で持つ。
- 3 スカウト3人〜4人で柱材を持ちあげる。
- 4 滑車を通したロープを少しずつゆるめて橋を河にやける。
- 5 ①の仮ロープは橋が曲ったり、ねじれのない様に調整しつつゆるめる。

6 橋を向岸に渡す。

7 橋の横丸太を取り付け

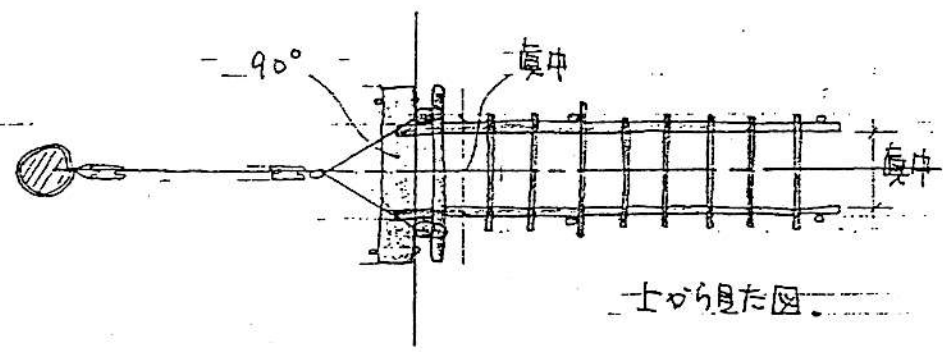
手摺子丸太を取り付けて手摺ロープを結ぶ。

### D 点検

1 橋の真線に対し太い丸太は90°に交っているか。

2 柱を引張る台付ロープは左右同じ力で引張っているか。

柱丸太の脚元は太い丸太よりはずれないか。



注 上の図の様になっていないと橋を上下すると

1) 橋はねじれる。

2) 橋は横に倒れる。